2019.7 Vol. 16

生涯学習やまがた









CONTENTS

- ② 特集 地方創生と生涯学習・社会教育 (廣瀬隆人氏)
- 5 ここがすごい! **ましこ町民大学**(栃木県益子町)
- たからびと⑥稲村理紗さん(山形市)
- 8 Information 山形県生涯学習センター助成事業 【二次募集】のご案内・地域づくり人材育成セミナー・地域学交流集会・洗心庵からのお知らせ・県立図書館等施設改修工事のお知らせ

学びの窓/青年の家 パワーアップセミナ-

今年も始まりましたパワーアップセミナー!参加者は、県内各地から集まった、県民の皆さまの学びをサポートする生涯学習・社会教育関係職員初任者の方々。講師から、生涯学習・社会教育のいろはを学ぶほか、先輩職員の体験から具体的な考え方やノウハウを学びます。講義だけでなく、緊張をほぐすアイスブレイクや、グループでのワークショップを通して、互いの考えを学びあい、悩みを共有しあい、時に笑いあい、たくさんの学びを明日の活力にしていただきました!秋には一皮向けた?参加者が再集結、さらに学びを深めていきます。

のあり方について廣瀬隆人氏より寄稿していただきました。 が必要とされています。地方創生を実現するため求められる学び を目指す地方創生。そのためには多様性のある内発的な取り組み 域がそれぞれの特徴を生かした自律的で持続的な地域づくり

般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣な 瀬せ 隆人氏

方創生の戦略

げられている。 連携する」という4つの基本目標が掲 る。そこでは「地方にしごとをつくり、 として地方の活性化方策が示されてい 創生することを目指すこの政策は、主 を生かした自律的で持続的な社会を ち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣 ち·ひと・しごと創生長期ビジョン」 「ま の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 新しいひとの流れをつくる」「若い世代 安心して働けるようにする」 くらしを守るとともに、地域と地域を 議決定した。 各地域がそれぞれの特徴 応するために政府は 2014 年に「ま 一時代に合った地域をつくり、安心な П [減少・超高齢社会の到来に対 「地方への

た施策として取り上げられている。 した地域づくり」 が地方創生に対応し こうした動きの中で、 「学校を核と

> では、 域学校協働活動である。いずれも社会 担う人材」などの表現はみられるが 発揮する人材」、「組織化を進めて具 句は出現していない。プランの中には、 加され、社会教育の課題となっている。 地域学校協働活動は社会教育法に追 教育と強くつながる施策である。 体的方策はコミュニティ・スクールと地 とらえられてはいない 生涯学習や社会教育との関連の中では 体的に事業を実行に移していく役割を プラン」 が提示されているが、この中 「コミュニティにおいてリーダーシップを また、2015年「地方創生人材 生涯学習、社会教育という語 特に

は、 でとらえられているわけではない が理解できるが、残念ながらその多く の担い手育成が喫緊の課題であること 連の地方創生のビジョンや戦略で 生涯学習や社会教育との関連の中 地域づくり、あるいは地域づくり

2 生涯学習・社会教育 2018 年の答申と

括的な振興ではなく、とりわけ社会教 はじめての社会教育の振興方策で、地 興方策が示されている。 2001 年に 具体的には言及されていない。 に進める必要がある」と度々指摘する 涯学習社会』実現への取組をより強固 生涯学習は「幅広い概念」と説明され を再認識し、社会教育の振興こそが 中央教育審議会が改組となって以来、 では、地方創生の文脈で社会教育の振 申した(以下「答申」とする)。 が、地方創生戦略との関連については 活動、職業等に生かすことのできる『生 重要とする内容となっている。 育が地域づくりとの関係でその重要性 方創生に貢献するのは、生涯学習の包 た社会教育の振興方策について」を答 口減少時代の新しい地域づくりに向け 「誰もが生涯にわたり必要な学習を行 2018年に中央教育審議会は「人 その成果を個人の生活や地域での 文中で 答申

に貢献してきた」とし、 つ丁寧に説明が繰り返されている。そ くりとの関連が強く意識され、 それに対して、社会教育は、 「学び合い支え合う地域づくり 人づくりの側 詳細か 地域づ

> いる。 面 くりの活動を通じて新たな学習の必要 いう論理であろう。これまでのような りを生かして地域づくりが進展すると 互のつながりをつくり出し、そのつなが ている。すなわち社会教育で、 育の関係の強さを強調する論調になっ 摘し、一貫して、地域づくりと社会教 ながり」をつくってきたことを再三指 りの側面から社会教育をとらえ直して 「学習成果の活用」ではなく、 :生まれるという現実に即した「学び つながりづくりの側面、 特に社会教育が住民相互の 地域づく 地域づ 住民相

廣瀬 隆人 氏 プロフィール



会教育研修所専門職員、宇都宮大学教 授、北海道教育大学大学院教授を歴 任。宇都宮市在住。 長年、山形県内の社会教育関係職員 どの講師を務める。山形県生涯 学習センター「山形学」企画委員会委

専門は、地域づくり、地域学、学校

北海道生まれ。北海道の公立高等 北海道教育庁生涯学習部

と地域の連携、地域福祉、人権教育な

文化課社会教育主事、国立教育会館社

員、栃木県人権施策推進審議会会長。

社会教育:個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割※

人づくり つながりづくり 住民の相互学習を通じ、 自主的・自発的な学びによる 知的欲求の充足、自己実現・成 つながり意識や住民同士の絆

学びと活動の好循環

地域づくり

地域に対する愛着や帰属意識、地域の 将来像を考え取り組む意欲の喚起 住民の主体的参画による地域課題解決

> ギーをかけるようになった。 実よりも事業の妥当性の説明にエネル ているのであろう。 様な主体との連携・協働」 のない行政評価などで、 者に気づかせるものになっている。 培ってきたこと、 していったため、 自ら自己完結的なものに 改めてこの答申で 失ってきたことを関係 答申は社会教育が サービスの充 が指摘され こうした 多

に注目しておきたい。

この答申で、こ

と活動の循環」※が指摘されていること

生涯学習の定着と 社会教育の復権

3

で培われてきた首長部局や民間団体と

関係者への強い警鐘でもあるともいえ

よう。これまでの社会教育の伝統の中

と考えられ

る。

同時にそれは社会教育

創生の視点から再び光が当たったもの 見えづらくなっていた社会教育に地方 れまで生涯学習振興施策の影に隠れて

の連携や協働、

あるいは壁を打ち

破

て積極的に越境してきた経験があった。

行政改革や地方分権の文脈で

社会教育行政は

「効率化」

īF.

雇

職員数の激減や、

ほぼ生産性 され、

らない」 習の振興や普及啓発事業も実施してお 担い手育成、 ろ個別の施策としては、 よって かれているが実態としては社会教育行 地方自治体では、 育成といったかつての社会教育事業に を図る」 ぞれの充実によって総体として それは学校教育や社会教育、 涯学習社会の実現が図られなければな 業や団体の事業、 のみを所管している。 [帰する潮流にあるものと考えられる。 2 文字通り生涯学習推進の要として 「生涯学習」 08 ものとなったのである。 ものとして位置づけられた。 年の教育基本法の改正に 青年教育、 「生涯学習課」 職業訓練などがそれ は条文化され、 当初は生涯学 地域づくりの 団体指導者 民間企 一が置 「実現 む

> とがねらいであった。 涯学習の理念を国民に広く周知するこ 民間企業まで出現した。 年間で「生涯学習」 を生涯学習課に名称変更したのは、 ても修士課程を修了できる環境になっ 大学は大学院まで整備され、 の役割を果たしてきた。 く普及し、 生涯学習をキャッチフレーズにする 基盤整備が進展した。 こうして平成の30 という言葉は広 そして、 社会教育

当課であり続けたのである。 を果たそうとしているのであろうか。 するパワーアップセミナーに参加するな ティ推進課や地域づくり課なども見ら 17 する自治体もあるが、 る。 脈で本来の使命を取り戻し、 流れの中、 しているものと考えられる。 不可分であることを自治体職員が体感 会と山形県生涯学習センターが主催 れるようになったが、 市民センターなどの新しい名称を選択 その気骨と精神性を感じる。 名称を変更しない自治体も多くあり、 公民館」 間社会教育課は 山形県内では「社会教育課」 生涯学習課+コミュニティセンター、 実質的に社会教育と地域づくりが 社会教育が地域 の名称も多く維持されてい 山形県教育委員 地域づくり」 いずれにせよ長 づくりの文 その役割 こうした コミュ 同時に から

4 社会教育の隘路と

実には、 は大きな役割を果たす」 関わる政策全体の基盤として社会教育 である。 残念ながら関係者による「身内の概念」 という認識は極めて薄い。 育成などの営みが 指摘するように首長部局で行われる普 れ自体は好ましいことである。 という言葉を様々に説明しており、 易に理解されない。 ていることも少なくない」 になっている可能性がある。 ことは再確認されたが、 会教育に期待が寄せられることは、 もどかしさ」が伝わる 社会教育」 社会教育行政担当部局のみで完結 地 文化財、 団体自身が 方創生、 身内であるはずの文化やスポ 練、 答申でいくら 「社会教育」 研修、 であるという意識は脆 博物館や図書館でさえも 地域 「社会教育」 「社会教育」 人材育成、 答申でも社会教 づくりの文脈で という言葉は 「地域づくりに 首長部局や企 といっても と指摘して 社会教育が 答申でも 担い手 答申 であ である 7

くりを基盤にした 行政がすすめる中心的な課題は、 地方創生の文脈の中で、 「地域づくりの担 社会 教

り口で地元の高校生のための学習機会 連携支援室が中心となり、斬新な切 は首長部局が所管する場合が多い。特 がある。 は歴史的に社会教育が培ってきた経験 手育成」にあるといって良い。 を形成しているのである。 の担い手として活動する基盤(組織化 民活動支援課では卒業後に地域づくり に強い関心を持たせる事業を進め、 焦点を当てた事業を展開している。社 棲み分けしながら地元に残る高校生に 果的な施策である。北海道網走市の づくりの担い手育成としては極めて効 に自治体の首長部局が精力的に進めて 会教育課で高校生に愛郷心を育て地域 市民活動推進課では、教育委員会と (ジモト大学)を提供している。地域 山形県でも既に最上総合支庁 しかし、この事業は、 現実に そこに 市

教育委員会としては、県立高等学校を所管する強みを生かしての地域づくりの担い手育成が可能である。例えば、地元に残ることを決めた高校生にが、地元に残ることを決めた高校生にが、地元に残ることを決めた高校生にが、地元に残ることを決めた高校生にが、地元に残ることを決めた高校生にが、地域づくりの担い手育成ではないだろか。特に山形県では、青少年のボラうか。特に山形県では、東立高等学

り推進事業」や「山形の未来をリー 見えるものではない。すぐに効果が見 業の多くが地域づくりの担い手育成を さらに山形県青年の家の事業では、 が意識された優れた先進事例である。 ドする人材育成事業」は、地方創生 形県教育委員会全体としての取り組み 値目標を掲げて、単年度でその達成度 社会的コストを節減するのである。 されることや地域社会の健全な自治の 策は地域社会に静かなインパクトを与 えるものは、すぐに消滅してしまう可 みの基本は人づくりで、すぐに効果が になっており、 伝統ともいうべき青年教育は、 験を持っている。 を推進している。 を測るだけでは見落としてしまう施策 た形であらわれてくる。それが様々な 気風や青年を支える風土や気質といっ え続けることにある。 伝統行事が維持 能性も高いのである。 教育委員会の施 目的としている。教育委員会の取り組 ンティアを育成してきた伝統と成功経 「魅力あふれる学校づく 山形県の社会教育の 既に山 数 事

地域学交流集会でこうした県内の高等でいる。山形県生涯学習センターでもど地域づくりを経験する活動が行われど地域づくりを経験する活動が行われる。山形県内では高校生が地域の資源

を立てる必要があるのではないか。する学習機会の提供や組織化への戦略市町村ではこうした地元の高校生に対担い手育成としての位置づけである。

でも社会教育関係者にとって困難な課 年教育の衰退の所産が現在の山形県の のの、社会教育が目をそらし続けた青 を始めとする置賜や庄内に見られるも を育ててきたのは青年団であったことは 県の農業生産力を高め、産業の担い手 悟ができなかった可能性もある。山形 と社会の変化に責任転嫁し、自らの覚 題でもある。巨大な先達の存在や時代 結婚支援事業なのかもしれない。 人づくりが存在した。川西町や南陽市 形県教育委員会や山形県青年の家の 自明のことである。その背後には、 くのかという取組みは、どこの自治体 に残る青年をどのように組織化してい しかしながら、卒業したあとに地元

概念にしてはならないのである。概念にしてはならないのである。

2014年の栃木県の益子町まち

取組みは全国各地で展開されている。 取組みは全国各地で展開されている。 この4 年間にわたり開講され、修了者が組織化し、20年に及ぶ地れ、修了者が組織化し、20年に及ぶ地れ、修了者が組織化し、20年に及ぶ地域づくり活動を展開してきた。その修了者を含む町民がこの条例を制定したのである。この条例を根拠に、教育委のである。この条例を根拠に、教育委員会では2017 年から「ましこ町員会では2017 年から「ましこ町員会では2017 年から「ましこ町目会では3018 世後のである。この条例を根拠に、教育委のである。この条例を根拠に、教育委のである。この条例を根拠に、教育委のである。この条例を根拠に、教育委員会では2017 年から「ましこ町はない。



「ましこ町民大学」の和やかなワークショップ風景

ここがすごい!

全国の取り組みを紹介します。 「ましこ町民大学」(栃木県益子町)



		第7期 年間カリキュラム
基礎	第1回	入学式・基調講演・オリエンテーション
	第2回	住民自治とまちづくり【講義】
	第3回	わたしたちのまちづくり 活動事例紹介①
	第4回	総務課・企画課【講義】
知識	第5回	益子町の歴史・文化【講義】
	第6回	住民課・建設課【講義】
	第7回	活動事例紹介②
	第8回	地域資源をたどる【現地視察】
	第9回	健康福祉課【ワークショップ】
	第10回	高齢者支援課【ワークショップ】
	第11回	環境課【ワークショップ】
	第12回	わたしたちのまちづくり
	お「2回	アクションプランづくり①
	第13回	観光商工課【ワークショップ】
	第14回	農政課【ワークショップ】
実践	第15回	アクションプランづくり②
	第16回	活動事例紹介③
	第17回	活動事例紹介④
	第18回	活動事例紹介⑤
	第19回	アクションプランづくり③
	第20回	アクションプランづくり④
	第21回	アクションプラン発表会リハーサル
	第22回	アクションプラン発表・卒業式

※9月~2月まで全22回の講義と演習(週1回ペース)

◆第6期生のアクションプラン例

「ましここども農園学校」

「益子が好きな子どもを育てたい」という想いから、益子に興味がある全ての人たちが楽しめる「益子ならでは」の体験学習型プロジェクトを立ち上げます!第一歩として2019年は、地元密着型支援グループ「ましこ耕してみっぺ!(MTM6)」で、農業と暮らし方を田植えや稲刈り、キャンプなどを通して学んでいきます。

「ちょっと自慢の ましこ世間遺産」

身近にあるのによく知らない「ましこ世間遺産」の知名度アップ活動。益子町のよさを感じる人が増え、"ましこ"自慢ができる人を増やす狙い。公民館講座のアピールや、ましこ世間遺産ツアーを実施!

「MMM(ましこマストマップ) 大作戦」

人口減少に歯止めを! 益子町のさまざまな施設や店の情報をジャンル別にマップにまとめ、益子町で安心して暮らすために必要な情報を提供、転入者が抱える「困った」を減らすお手伝いをします。紙媒体のほか、グーグルマップを活用し、インターネット上でも見られるように!

「あなたと一緒に 過ごし隊」

高齢化社会に向けた取組 として、益子町高齢者支 援課と協働で独居高齢者 宅を訪問し、おしゃべ り、団らん等、一緒に過 ごし、高齢者に優しいま ちづくりを実践!

Q いつから何のために始まったの?

「各地域、各業界、各年代に多くのリーダーを輩出すること」と町長は明言しており、自分たちの住む町の良さや問題点を学ぶ機会を設けることで、地域への関心を醸成し、地域の課題解決に取り組む協働のまちづくりの実践者を育成するために開催しています。1998年から4年間開催し、2017年に再開しました!

Q どんな講座?

講座内容は三部構成。「まちづくり基礎」では、「新ましこ未来計画」や「益子町まちづくり基本条例」を素材として、まちづくりに携わるための心構えや、住民を取り巻く環境や社会問題について学びます。「まちづくり知識」では、高齢者支援課、健康福祉課、観光商工課、企画課、建設課などの職員を講師に町の政策課題を学び、後半は「課題解決のため自分たちに何ができるか」をグループ討議で考えます。また、町内の文化財・施設・景勝地を現地視察して地域資源の有効活用も考えます。「まちづくり実践」では、地域で活躍しているリーダーの活動事例を学び、学んだ課題からグループごとに自分たちに何ができるか「アクションプラン」としてまとめます。最終回にプランを発表し、翌年度以降の実践につなげるという内容!

Q どんな成果が?

1998年から1期生を中心に4期生までのましこ町民大学大学院悠楽塾が組織され、この20年間、地域づくり活動を継続してきました。悠楽塾は、傘下10の小グループが自由に活動していて、全体事業も行われています。現在60名程度が参加、町長との懇談会、町議会議員との懇談会、各種講演会、町内の地域づくり事業への支援、研修旅行なども行われています。悠楽塾の代表は周囲から推されて町議会議員にも。2017年から再開した町民大学の修了者もこの組織に参加でき、修了者の活動発表会も悠楽塾関係者と合同で開催しています。

廣瀬先生の ここがポイント!

- ①長期間の学習の蓄積
- ②講義を聴くだけでなく自分たちが 何ができるのかを考え発表する学習方法
- ③丁寧な学びのふりかえり時間を確保し 学習を深化
- ④アクションプランづくりの演習で 学習者間の相互学習を促進

ii

Voice

新しい仲間ができとても感激です。その仲間たちとこれから出来る事から挑戦していけるとりクワクしています。町民大学を受講して得るものが沢山ありました!

幅広い年齢の方と出会って視野が広がりました! 実際に町職員の方々からお話を聞いて益子町について様々な分野から学ぶことができました。

益子町教育委員会事務局 生涯学習課

住所 栃木県益子町益子3667-3(中央公民館) TEL 0285-72-3101 URL http://www.town.mashiko.tochigi.jp/page/page001860.html



やまがた たからびと

interview

がながらりで まちづくりファシリテーター(山形市)

いが、

私の活動の原点です。

多く、

もともと秋田市出身ですが、

始めたきつかけ、

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー 今回は、大学時代からまちづくりや市民活動に関わってきた経験を ワー -クショップのファシリテ-ターや研修講師等として東北を中心に活躍中の稲村 理紗さんにお話を伺います。

プやセミナーのファシリテーターを引き受け でセミナーを開いたり、個人的にワークショッ の中間支援の活動を手伝ったり、自主企画 関わってファシリテーションスキルを現場で磨 たりしていました。 相談業務や講座企画を行いながら、NPO 市民活動支援センターでアドバイザーとして れ故郷の秋田で活動したいと、開設直後の 動の支援が本当に面白くて、卒業後、生ま いたりしました。まちづくり活動や市民活 たり、まちづくり活動の支援を行うNPOに 子どもの学びと居場所づくりの活動を始め それから、仲間と公民館を拠点に地域の

務やコーディネート業務に携わる方向けの や課題解決のためのワークショップ、 個人的に講師やファシリテーター、 域の基本構想を策定する住民ワークショップ 宅か現場で仕事をしています。 ザーなどを引き受けて、週の半分以上は自 娘の育児に奮闘中ですが、東北を中心に 結婚を機に山形市に移住し、 今は2歳の 例えば、 アドバイ 相談業

がっつりと学び直ししたいと思っていますー

行動にうつしていた主催者の1年生との出会 かけです。楽しかったし気づかされることも 足」という福祉系イベントに参加したのがきつ 生以外との出会いやつながりを求めて「大遠 生涯学習や社会教育を学んでいた頃に、学 社会に対する疑問を自分の頭で考え 現在の活動は? 新潟大学で 話し合いの場 पड़े वर्श्य 困った事 話が長て .終了前に湯では

-クショップでポイントを板書し解説する稲村さん

研修、 ワークショップ等に関わることもあります。 える授業や高校生の地域理解プログラムの 大学でファシリテーションスキルを教

活動で感じていることは?

10 代 持ち行動する若者を頼もしく思う一方、 のがないと辛くなってしまいます。 受けている。 中になるという社会からのメッセージを一身に 動が浸透したと思います。ただ、当時は楽 どんプロジェクトを立ち上げていて、市民活 喜びや希望 ギーになり得るのですが、 減りまちも衰退し、予測不能の大変な世の しさが原動力だったように思いますが、 したが今は激変しました。 若い世代もどん ンティアは年配者の活動といったイメージで 私が活動を始めた頃は、 20代の若者は危機感がすごい。 危機感も人が行動するエネル 楽しさや緩やかさのようなも 長く続けるには 市民活動やボラ 危機感を 今の

> さや希望を伝えていければと思います や地域の現状への大人の責任を感じ、 もつと明る

切にしてほしいと感じます。 りせずに、自分の中で育ち深まる学び自体を大 びをアウトプットすることや他人と比べて焦った も、得る学びも、何をどう学びたいのかも、 るタイミングもそれぞれ違います。だから、 積されてきた学びも、その学びが何かとつなが 本的に個人的なもの。 めていて私自身葛藤があるんですが、学びって基 それから、ワークショップでグループ学習を進 人と集まって学んだとして 学 蓄

歩踏み出すためのメッセージを!

です。でも何かの活動や学びの機会に踏み込ん いと思い込んでいるとか、阻害する何かがあるん るのに、変わるのが怖い、面倒くさい、時間がな いう時はそれを選びたいという根本的な思いがあ 極的に作るようにしていますし、 仲間と勉強会をしたり、 以外に、セミナーに参加したり、ファシリテーター はやってみたらいいと思います。 損得や効率を考えずに、気になること迷うこと やつながりなどプラスしかないんです!だから、 得るものしかない!気づきや学び、人との出会い だとして、何も減るものはないということです! いる時って、現状に満足していなくて変えたいと きくなったら、 感じているとても良い時期だと思うんです。 何かが気になったり、迷ったり、もやもやして 何かテーマを決めて、 インプットの機会を積 私も仕事と育児 娘がもう少し大 大学などで そう

山形県生涯学習センター事業紹介

≈1人ひとりの県民がいきいきと活躍する 「生涯学習社会やまがた」を目指して~

あなた やまがた たからびと

今年はここに注目!

学習情報・機会の提供



- ▲山形県生涯学習情報提供システム「やまがたマナビィnet」
- ●学習情報収集・提供事業 voick up!
 - 「やまがたマナビィ net」
- 長寿社会づくり推進事業
- 「ふるさと塾」推進事業
- 広報紙発行事業

広報紙『生涯学習やまがた』発刊

山形県生涯学習文化財団ホームペー ジ上の「やまがたマナビィnet」では、 県内の講座・イベント、講師・指導者、 団体・グループ、施設等の情報提供を 行っています。地域・学校・家庭いず れの場でもご活用いただける情報が満 載です!



- ▲今年度の山形学推進事業は山形学フォーラムにて 荒井良二さんのトークショーからスタートしました!
- ●「山形学」推進事業 pick up!

行政の初任者職員向け 研修は、役職や業務内容 等を考慮したコース別研修 を組み込んでパワーアップ! この他、行政職員と地域 づくりに興味関心のある県 民を対象に、「魅力ある企 画とチラシづくり」をテー

マにセミナーを行います。

Check ! P8

山形学フォーラム、山形学講座

「山形学」地域連携講座支援事業

「山形学」は平成2年の生涯学習セ ンター開設時より中核事業として継続。 今年度は「みやびとあそびの山形」を テーマに、フォーラムと講座を開催。山 形の芸術文化について、講義や現地学 習で学びます。

加坡生涯学習支援事業の募集について 山形県生涯学習センターでは、地域づくりの観点から生涯学習活動の振興を図る ため、現代的課題の解決や社会の要請に応じた生涯学習事業に助成を行います。 是非ご応募ください。 助成対象事業・現代的課題の解決や社会の要請に応じた生涯学習事業 子育て講座! 健康長嘉鎌湾会 / 防災·防犯教室! ==0.00A/J SE(U)|や ①生選学器 - 社会教育関係接股及び技術・文化施設 ②生選学器 - 社会教育関係行政機関(公教館・コミュニティセンター、市町村主体の協議会・実行委員会等さ 3高参教育機関(

▲市民団体さんにもご活用いただける支援事業が 増えました!

号・社会教育に関する事業を行うことを主目的に設立・活動している NPO 法人 主連学習・文化・ボランティア活動等を行っている団体のうち、団体所在地の市

- ●生涯学習活動支援事業 pick up 地域生涯学習支援事業 new! 青少年地域学習活動支援事業 特色ある生涯学習活動支援事業ほか
- 生涯学習活動実践団体との 連携事業

「生涯学習の支援」として、地域づ くりの観点から、団体等が開催する現 代的課題の解決や社会の要請に応じた 学習事業への支援を新設!青少年の地 域学習や地域づくり活動への支援も継 続中です! Check! P8

生涯学習活動支援者の育成



▲講義だけでなくゲームやワークショップを織り交ぜ、楽しく学 ぶ地域づくり人材育成セミナー! pick up!

生涯学習関係職員研修事業

パワーアップセミナー、地域づくり人材育成セミナー

● 高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業

フォーラム、実践講座、分野別研修 フォローアップ研修、生活支援コーディネーター研修

シニア地域実践活動支援事業



学習成果の活用

- ▲地域学交流集会では、高校生を含む参加団体が活動を持ち寄り pick up!
- 「山形学」推進事業【再掲】

地域学交流集会

高齢者生きがいづくり・ 生活支援活動人材育成等事業【再掲】

全国の地域学の先駆けであり、県内においても先 導的な「山形学」。高校生から高齢者まで幅広い年 代層の活動者が集う「地域学交流集会」もお見逃 しなく! Check! P8

Information Space

山形県生涯学習センター助成事業【二次募集】のご案内

―般向け

関係者向け

2つの支援事業について二次募集を行います。いずれも9月10日(火)必着です。詳しくはHPをご確認ください。

<平成31年度「山形学 |地域連携講座支援事業>

県内の地域学や地域づくり活動を支援するため、県民を対象と する地域に関する体系的な講座に助成を行います。

二次募集:1事業

<平成31年度地域生涯学習支援事業>

県内市町村や生涯学習施設、芸術・文化施設、高等教育機関、NPO法人等が実施する、県民を対象とした生涯学習活動を支援します。

二次募集:1事業

地域づくり人材育成セミナー ~人が集まる企画とチラシづくり~

B / エ ナ/ ナ/ L L

地域づくり活動のスキルアップに! 「人が集まる企画と効果的な広報方法、ダメダメチラシとビフォーアフターチラシ」について学びます!

日 時 9月7日(土)13:00~16:00

会 場 洗心庵

講師 坂田静香氏 (NPO法人男女共同参画おおた理事長)

申込み 山形県生涯学習センター(下記)へ

〜洗心庵からのお知らせ〜 第6回洗心庵写真コンテスト

一般向け

作品募集中!詳細は財団HPをご確認ください。

題 材 洗心庵の春夏秋冬(白黒・カラーいずれも可)

部 門 一般の部・U - 18の部

作品形態 単写真のみ(組写真は不可)サイズはA4、四つ切

募集期間 11月1日(金)~令和2年1月31日(金)必着

抹茶と庭園をめでる会

一般向に

時 10月27日(日)、11月2日(土)、12月7日(土) 10:00~15:00

公本 300円(菓子付)

問合せ いずれも洗心庵(下記)へ

地方創生、地域活性化、まちづくり…縁遠い言葉に感じる人もいるかもしれません。でも、今回のたからびと稲村さんは、仲間と楽しみながら地域で自分ができることを始めたら、それが「まちづくり活動」だと周りから言われて気づいたとか。自分の住む地域で気になることは?自分ができることは?仲間と楽しみながら小さな行動から始めてみませんか?(A)

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 令和元年7月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36 [遊学館] TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp/yuqakukan/

【開館時間 9:00~21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

▲ 休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28 TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

【開館時間 9:00~21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

地域学交流集会

関係者向け

-般向け

~地域を知ることからはじまる地域づくり~

地域を学び地域づくりへと行動していく若者が増えてきています。彼らの活動を、レクチャーフォーラムや実践交流ラウンドテーブルを通して学び合います。地域学や地域づくり活動の実践事例をご発表いただける事例提供者も募集中!

日 時 11月30日(土)10:30~16:00

会 場 遊学館3階 第一研修室

コーディネーター 廣瀬隆人氏((一社)とちぎ市民協働研究会代表理事)

講師 鈴木和仁氏(酒田光陵高等学校校長)

料 金 無料 託児あり(要事前申込)

申込み 山形県生涯学習センター(下記)へ

一県立図書館等施設改修工事のお知らせ一

現在、図書館を中心とした改修工事が行われています。(令和元年9月末まで)そのため下記のとおり一部の研修室のみ貸館を行っております。

対象期間 令和元年9月30日までの土曜日と日曜日に限り貸館 (毎月第3日曜日は休館日)

対象施設 第1研修室(定員105名)、和室(6畳+8畳)

※工事進捗状況等により、貸館を中止する場合があります。工事期間中のため、騒音や振動、不意の停電等が発生することも予想されます。ご理解のうえ、ご利用ください。

※10月以降の貸館については現在調整中です。

一生涯学習センターのご利用について一

- ●館内1・2階が工事エリアとなり、正面東側の臨時入口からの出入りとなります。構内への車の乗り入れはできません。
- ●総合受付がなくなりますので、ご用の方は3階事務室へ直接 お越しください。県営駐車場の割引手続きも、3階事務室で行 います。入退館時にお立ち寄りください。
- 「情報提供コーナー」は3階へ移動いたしました。

※工事期間中は、バリアフリー対応等が不十分になり、ご迷惑をおかけします。何かございましたら、3階事務室にご連絡ください。

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊「山形の生い立ち」 (1,080円)をプレゼント! 左記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持たれた記事④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・FAXでご応募ください! 締め切りは8月末です。